

## 第3学年2組 図画工作科学習指導案

### 研究主題

つくりだすことに熱中する図画工作科学習  
～対象との対話を重視しながら、自分らしく表現できる子どもの姿を求めて～

### 1. 題材名 あつまれ たかくらモンスター [A表現(2) 工作①]

### 2. 指導観

○ 本学級の子どもは、図画工作科の時間を楽しみにしており、どの活動においても意欲的に取り組むことができる。7月に実施したアンケートでは、図画工作科の学習時間を「好き」と答えた子どもが多く、図画工作科に対する関心も高い。しかし、粘土で作品をつくることに対して「好きではない」と答える子どもも多く、苦手意識をもって取り組んでいる子どもがいることが分かった。2年生の学習「くっつきマスコット」では、軽量紙粘土でマスコットの形をつくり、絵の具を上から塗って自分だけのマスコットをつくる学習を行った。「絵画」では、色や形から発想を広げていくという経験をしているが、軽量紙粘土に絵の具を練りこみ、柔らかい色合いのカラフル粘土から、色や形について発想を広げていく体験はしていない。このことから、軽量紙粘土に絵の具を練りこんだ「たかくらモンスター」づくりの学習を実践することにした。粘土で作品をつくることが「とても好き」な子どもを増やしたいという思いをもちながら、イメージしたモンスターの色や形をカラフル粘土で夢中でつくらせ、自分の思いを表現できる子どもの育成をねらって、本題材を設定した。

### ※ 図工に関するアンケート結果（7月実施）

質問項目	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 図工は好きですか。	86%	14%	0%	0%
② もっとつくりたいと思うことがあるか。	70%	13%	4%	13%
③ 粘土で作品をつくるのは好きか。	50%	36%	9%	5%
④ 友達の作品のよいところを見つけるのが好きか	77%	13%	10%	0%

### 3. 研究の視点

○ 本題材では、軽量紙粘土で子どもが楽しくなるカラフルなモンスターの色や形、方法や材料を工夫する力を培うことを目標としている。軽量紙粘土に、絵の具を練りこみ、柔らかな色調のカラフル粘土で作る、その色や質感を楽しみながら、形や色の組み合わせを工夫し、自分がイメージしたカラフルなモンスターを作る内容である。

2年生の題材「ひみつのグアナコ」・「くっつきマスコット」・「えのぐじま」、3年生の「絵の具と水のハーモニー」・「ねん土ランドへようこそ」の学習を生かしながら、本単元では、軽量紙粘土に絵の具を練りこむ技法を使い、つくった粘土で自分がイメージしたカラフルなモンスターに表す力を伸ばし、4年生の「かみわざ！小物入れ」「つくって、つかって、たのしんで」などの学習につながるようにしたい。

○ 本単元の指導に当たっては、以下の二つに重点を置くようにする。

#### <視点1> 題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

##### ① 題材設定の工夫について

高蔵小学校のマスコットキャラクター「タッカー君」が掲げる3つの花「学びの花・元気の花・心の花」から、子どもが笑顔で楽しくなる色や形についてイメージを膨らませるようにする。

##### ② 題材との出会わせ方や展開の工夫について

「であう」段階では、学校の校舎、教室、特別教室や運動場からタッカー君の友達のモンスターがひょっこりと現れて学校の子どもと楽しく遊んだり勉強したりする「たかくらモンスター」というテーマをもたせ、カラフルなモンスターのイメージを膨らませ、子どもの意識を高めるようにする。また、軽量紙粘土に、絵の具を練りこみ、柔らかな色調のカラフル粘土で作ることから、その色や質感を楽しんで取り組み、お気に入りのカラフル粘土をつくり、発表し合って、クラスの「カラフル粘土コレクション」を作るようにする。更に、粘土をねじる・まぜ合わせる・伸ばすなどの技法を発表し、「言葉のパレット」として掲示して、活動の参考になるようにする。

「みつける・あらわす」段階では、自分が作るモンスターのイメージを膨らませ、高蔵小学校がもっと明るく楽しくなるようなモンスターを作るようにする。実際の活動場面では、色や形をイメージしやすくなるように、モンスターの住処に設定したいろいろな場所の写真を掲示するようにする。芯材は、加工しやすい身近なアルミ缶を用いる。カラフル粘土作成中に余った粘土は、みんなの粘土コーナーとして、誰でも使えるようにして、少量の粘土は、それを使って良いようにする。活動中に、鑑賞タイムを設けて、友達の表現や技法の良いと思ったことを参考にして、もっとやってみたい、作品がさらに良くなるようにしたいという意欲をもたせて、活動に意欲が出るようにする。子どもの作成中の作品を撮影し、テレビに映して、友達の表現の良さを共有し合うなど、ICTを有効的に使うようにする。

「あじわう」段階では、自分が作ったモンスターを住処とする場所において、写真を撮り、自分のイメージと比べてみるようにする。クラスで鑑賞し合い、自分の良さや友達の良さを共有できるようにする。

#### <視点2> 言語活動の場や方法を工夫する視点から

##### ① 感じたことを共有する言語活動について

「であう」段階では、子どもが作ったカラフル粘土について話し合ったことを粘土のカラフルコレクションに残しておくことで、自分のつくりたいモンスターのイメージづくりのヒントになるようにする。

「みつける・あらわす」段階では、鑑賞タイムで、友達の表現方法を話し合わせる中で、粘土をねじったり、棒状にしたり、切ったりするなどの表し方があることに気付かせるようにする。また、それらを言葉のパレットにまとめ、表現をしていく際に生かしていくようにする。「あじわう」段階では、出来上がった作品とモンスターと一緒に撮った写真を見て、表し方について話し合い、自他の作品のよさに共感できるようにする。

##### ② 対象との対話の積み重ねと学習評価の工夫について

毎時間の学習を振り返る「振り返りカード」に製作過程が分かるように作品の写真を取り入れるようにする。振り返りシートを作成することで、次時につながるように記入できるようにし、記入内容から、子どもの思いを把握し、今後の支援に生かすようにする。

#### 4. 目標

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ カラフル粘土をつくりながら，形や色の感じを理解することができる。</li> <li>○ 粘土を使った経験などを生かしながら，自分が思いついたたかくらモンスターを，色や形を工夫して表すことができる。</li> </ul>
思考力，判断力，表現力等	○ カラフル粘土のできる形や色の感じが自分のイメージから，たかくらモンスターを思い付き，どのように表すか考えることができる。
学びに向かう力，人間性等	○ カラフル粘土で作ることを楽しもうとしている。

#### 5. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導・支援上の留意点</li> <li>◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u></li> </ul>	評価規準および評価方法
であう	<p>1. モンスターの住処を決めて，そこに住んでいるモンスターを考えてイメージ図をかく。①</p> <p>2 材料に触れて，カラフル粘土を作る。①</p> <p>(1) 粘土に親しみながら，いろいろなカラフル粘土を作り，みんなのお気に入りのカラフル粘土コレクションを作る。</p> <p>(2) できた粘土でねじったり，伸ばしたりして遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校に集まると楽しくなるモンスターをイメージして，自分なりに考えて描くようにする。</li> <li>○ 校舎内や運動場など，の写真を掲示して，イメージを膨らませるようにする。</li> <li>○ 教師がカラフル粘土を作って見せたり，カラフル粘土で作った作品を見せたりして，どのように作っているのか工夫しているのかを話し合いながら作成するようにする。</li> <li>○ お気に入りのカラフル粘土を出し合い，クラスの「カラフル粘土コレクション」を作るようにする。</li> <li>◎ クラスの「カラフル粘土コレクション」について，良さや面白さ，作り方を交流するようにする。</li> <li>○ できた粘土で，ねじったり，伸ばしたりして自由に遊び，その技法を「言葉のパレット」にする。</li> </ul>	<p>【知・技】カラフルモンスターについて考えをまとめ，イメージ図を描いている。（行動観察・イメージ図）</p> <p>【知・技】カラフル粘土作りに進んで取り組み，いろいろな色の組み合わせを自分のカラフル粘土コレクションづくりに生かしている。（行動観察・作品）</p>
みつ	3. カラフル粘土を使って，自分が表したいモ		

ける ・ あ ら わ す	<p>ンスターをつくる。</p> <p>・モンスターにあったカラフル粘土をつくる。</p> <p>①</p> <p>・モンスタースタイルの土台を作る。①</p>		<p>【思・判・表】カラフル粘土の色や形の変化のおもしろさを生かして、自分の考えたカラフルモンスタースタイルを立体に表している。(行動観察, 作品)</p>
	<p>・モンスターに飾りをつける。鑑賞タイムで友達の作品を見る。①</p> <p>&lt;本時3 / 3&gt;</p>	<p>○「カラフル粘土コレクション」を参考に、どの色にするかを考えながら、モンスタースタイルの粘土を作るようにする。</p> <p>○ 自分が描いたモンスタースタイルの絵とそのモンスタースタイルの住処の写真を掲示してイメージしながら作るようにする。</p> <p>◎ 鑑賞タイムを行い、楽しく互いの作品を見合い、表現や技法の良い所を認め合い、自分の作品の参考にしながらの作成に生かすようにする。</p>	<p>【思・判・表】カラフル粘土で自分の思いに合った表し方の工夫を考えることができている。</p> <p>(行動観察・作品)</p>
あ じ わ う	<p>4. 「あつまれ たかくらモンスタースタイル」をイメージして、お互いの作品の良い所を見つめ合う。①</p>	<p>◎ 自分の作品についての思いを書き、それを基に、伝え合うことができるようにする。</p>	<p>【態】互いのところを見つめ合い、表現や技法の良いところを発表しようとしている。</p> <p>(行動観察・発表)</p>

## 6. 本時の学習 令和3年 9月 14日(火) 第2校時 教室

(1) 主眼 カラフル粘土を使って、想像したカラフルモンスタースタイルをつくる活動を通して、色や形を考えたり粘土の特徴を生かしたりして、表し方の工夫を考えることができるようにする。

(2) 準備

教師 タブレット, 師範作品

カラフル粘土掲示用コレクション, モンスタースタイルの住処の掲示用写真

言葉のパレット (掲示用), グルーガン, 針金, 工作用紙

子ども 自分で作ったカラフル粘土, 土台 (アルミ缶, 350ml程度のもの), 濡れタオル, 粘土板, ワークシート (モンスタースタイルの住処の写真, モンスタースタイルのイメージ図)

(3) 展開

	<p>主な学習活動・内容</p>	<p>○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法）            ◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u>            ★ 一人一人のつまずきへの支援のポイント</p>
<p>であう</p>	<p>1. 「モンスターの写真」を見て、前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○ 「カラフル粘土コレクション」「モンスターの住処」の写真「言葉のパレット」を提示し、前時に作ったカラフル粘土を使って、モンスターづくりのこれからの活動で作ってみたい、これならできそうだという見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 粘土遊びをした時に、伸ばしたり、模様をつけたりしたこ</p>
<p>めあて 色や形の組み合わせを考えて、たかくらモンスターをつくろう。</p>		
<p>みつける・あらわす</p>	<p>2. イメージ図を基に、カラフル粘土の面白さを生かして、立体に表す。</p> <p>(1) 「言葉のパレット」などを参考にして、土台に、飾りなどを付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>丸めたり、伸ばしたりして自由に表現する。</li> </ul> <div data-bbox="231 1317 667 1570" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p>目や口は、何色にしようかな。どこにつけようかな。</p> </div> <div data-bbox="231 1601 671 1910" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p>からだのかざりはどうしようかな。ねじってみよう。</p> </div>	<p>○ 「モンスターの住処」の写真やイメージ図、「言葉のパレット」を見ながら、作成するようにする。</p> <p>○ 「みんなのねん土広場」から、自分に必要な少量の粘土は、使ってよいことを伝えるようにする。</p> <p>◎ <u>タブレットで撮影しテレビで投影して、子どもの思いが共有できるようにする。</u></p> <p>○ 鑑賞タイムで自分が見たり、友達と表現方法や技法を話し合ったりしたことを参考にして、自分なりの表現を更に深めて、活動をするようにする。</p> <p>★一人一人のつまずきへの支援</p> <div data-bbox="683 1429 1481 2040" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 発想や構想でつまずき、活動が進まない子どもには、「言葉のパレット」にある言葉やイメージ図を基に声掛けし、表現を支援するようにする。また、「鑑賞タイム」を設け、グループ以外の友達と交流し、イメージを広げることができるようにする。</p> <p>◆ 技能的な面でつまずいている子どもについては、接着する際に、どうしても粘土が外れる時は、接着方法のアドバイスを子ども同士で聞いたり、教師がグルーガンを準備したりしておくようにする。</p> <p>◆ 大きな羽や耳・しっぽなど、うまく形にできない子どもについては、芯材になる工作用紙・針金を準備し、形ができるよう支援する。</p> </div>

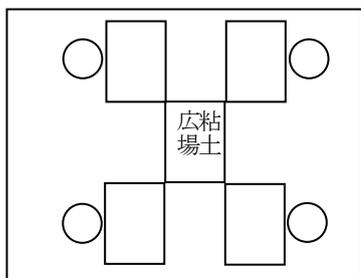
(2) 鑑賞タイムで見合ったり、話し合ったりする。  
 ・ 鑑賞タイムで上手な友達の作品発表をする。

面白い形だね。どうやってつくったの



とてもすてきだね。ぼくもやってみたいです。

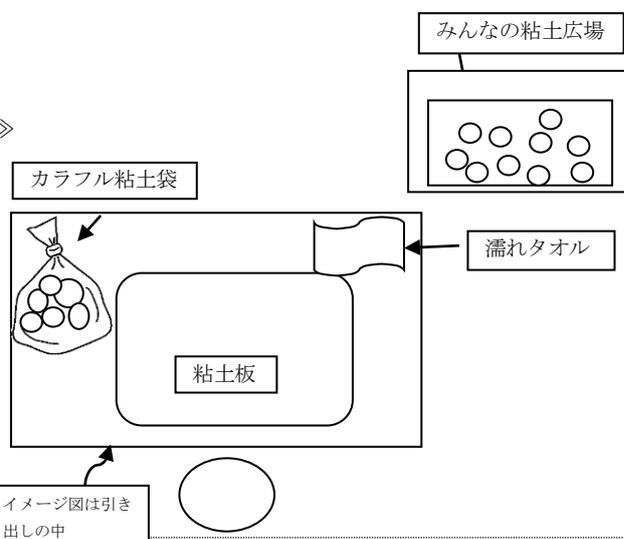
《設定した場（グループ）の図》



重ねて丸めました。かっこいいかんじになりました。

【思・判・表】カラフル粘土で自分の思いに合った表し方の工夫を考えることができている。  
 (行動観察・作品)

《机上図》



あ  
じ  
わ  
う

3. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。

- タブレットで撮影した児童の作品を、みんなで見合い良いところを褒め合うようにする。
- 本時の活動を振り返って、自分が色や形の組み合わせを工夫したことや友達の良いところを「振り返りカード」に書くようにする。

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」

自分がイメージした、たかくらモンスターの粘土の色や形、組み合わせを思考しながらつくることで、つくることが楽しくなり、学校に集まるたかくらモンスターの完成に向けて、夢中になって取り組む子ども。